



## 新たな学びへの挑戦をスタートさせた年

校長 五十嵐 俊子

今年度は、学校で学んだことが明日や未来につながるように、今までの教育を見直し、新たな学びへの挑戦をスタートさせた1年間でした。私たち教員にとっても、子供たちと一緒にたくさん学んだ1年間でした。

以下に、今年度に新たに取組んだことを紹介いたします。保護者、地域、そして本校にかかわる多くのみなさまのご協力に感謝いたします。次年度も、子供も大人も学び続ける町五小として挑戦していきます。

### ★大切な命を守る取組

まもなく東日本大震災から8年目を迎えようとしています。今後も大きな地震や自然災害が避けられない状況です。そこで、「大切な命を守ること」をテーマに、予告なしの非常時訓練に加えて、今年度から「町五 Safety Day (親子防災訓練)」と「4年生の避難所体験学習 (宿泊)」をスタートさせました。

### ★持続可能な社会の創り手 (地球市民) としての意識を高め、実践力につなげる取組

今年度から、「まちご エンジョイ ラーニング (生活科、総合的な学習の時間)」で、SDGsを意識しながら玉川学園を探究するプロジェクト学習をスタートさせました。地域の課題を見付け、探究していく過程で、地域や専門家の方から学んだり、友達と他者と協働して課題を解決したり、考えを表現したりしました。

### ★外国語教育への取組

今年度から、中学年では週1時間の外国語活動、高学年では週2時間の外国語をスタートさせ、定期的に地域にお住いの松香洋子先生 (松香フォニックス) にご指導をいただきました。高学年では、モジュールの時間にDVD教材を活用しています。

### ★対話で深める授業の取組

昨年度に引き続き、授業の中で対話を多く取り入れ、友達と意見交換することで新しい発見や発想を生み出すことを目指しています。対話のツールとして、大学からお借りしているICT機器に加えて、chromebook (クロームブック) が加わり、共同編集できるG Suiteを活用した協働的な学びをスタートさせました。

### ★プログラミングの取組

今年度から町田市と東京都の研究推進校として、プログラミング教育をスタートさせました。信州大学の東原義訓教授と東京学芸大学の加藤直樹准教授の指導をいただきながら進めています。近隣の6校の小学校とも連携を図りながら、町五小の教員が講師役となって合同研修会を開いたり、公開授業を行ったりして、推進校としての役割を果たしています。先月の26日には、今年度の実践報告会を行いました。

プログラミングは、「プログラミングを体験しながら、コンピュータに意図した処理を行わせるために必要な論理的思考力を身に付けるための学習活動」です。本校では、2年生以上の学年でコンピュータを活用しながら実践しました。2、3年生はプログラミング、4年生以上はScratch (スクラッチ) を体験しました。5年生算数「正多角形」の学習では、繰り返しの回数と曲がる角度の大きさ等、プログラムの一部を変えることにより、様々な正多角形を描くことができるという秘密を自ら発見することができ、今までの一斉的な教科指導とは異なる子供たちの主体的な学びの可能性を感じました。5年生はその他にもmicro:bit (マイクロビット) やロボホンを動かす体験をしました。6年生は図工でOzobot (オゾボット) を動かす体験をしました。プログラミングをやってみて、ものづくり、芸術的表現、ロボットによる会話等、その目的によって同じ児童でも全く異なる方向の発想が引き出されることが見えてきました。このようなプログラミングの楽しい体験を通して、子供たちの心に残るものがあれば、将来につながるのではないかと感じています。

これからの時代はコンピュータは不可欠です。プログラミングは、プログラミング言語を覚えたり、技能を習得したりすることが目的ではありません。学校での体験がきっかけとなって、自ら身近な問題を解決しようとする主体的な態度や、コンピュータが好きになって、上手に活用し、それによって幸せな人生を送ろうとしたり、よりよい社会を築こうとしたりすることにつながってほしいと願っています。

